

各位

類似名称の『沖縄命の電話』について

日頃より、私たち「沖縄いのちの電話」の活動を支援してくださっている皆さま、いつもありがとうございます。コロナ禍で社会が混乱し、不安・不穏な社会情勢の中、私たちはさらに使命感を感じながら活動を続けております。

さて、令和2年5月18日、沖縄タイムス、琉球新報の両紙に、一般社団法人『沖縄命の電話』の活動が掲載されました。記事によると今年2月12日に法人として設立され、家庭内や生活に関するさまざまなトラブルに関して、電話や直接面談で相談を受け、問題解決をはかっているとのこと。死にたいという電話も掛かってくるため「命の電話」というネーミングにし、那覇市議員、住職、保護司など5人のメンバーで運営している活動です。

私たち「沖縄いのちの電話」は、昭和51年1月に開設し、44年間活動を続けてきました。また、「日本いのちの電話連盟」の一員であり、全国50センターと共に活動しています。ボランティア相談員の養成のために毎年約10ヶ月間の講座を行い、延べ1500人超の電話相談員を輩出し、現役の相談員は約80人で、年間365日、朝10時から午後11時まで電話相談に対応しています。お互いが匿名であることが、安全で自由な発言を保証すると考えます。そして相談者に対して具体的なアドバイスよりは、しっかりと話を傾聴し、気持を受けとめ寄り添うよう心がけています。そのためには相談員の資質向上に努め、定期的に勉強会、スーパーバイズ、県外研修会への参加など、日々研鑽を続けています。また組織を維持運営するために、沖縄県からの活動支援や年間100人以上の組織、個人の方からの寄付を戴き、応援して戴いています。

この度、『沖縄命の電話』というまぎらわしい名称の組織ができたことに困惑しています。私たちの「沖縄いのちの電話」と字は違いますが読み方が同じで、電話で相談を受けるといった活動も似ているため、今後混乱が起こることが予想されます。『沖縄命の電話』の理事の方々に会って、名称の変更をお願いしましたが、要請は受け入れてもらえませんでした。

私たちはこれまで通り、多くの方々の心の支え、いのちの支えとなるべく電話相談活動を継続していくつもりですが、各皆さまにも事情を理解して頂き、お間違えのないよう今後も「沖縄いのちの電話」へのご支援をよろしくお願い致します。

令和2年6月16日

沖縄いのちの電話 理事長 長田 清
事務局長 渡久山 朝裕